

真仏寺のお田植え歌



親鸞聖人お田植え歌伝説 1



親鸞聖人お田植え歌伝説 2

五劫思惟ノ苗代ニ
抱戴永劫ノシロヲシテ
一念歸命ノタネヲオロシ
自力推行ノ草ヲトリ
念々相続ノ水ヲ流シ
往生ノ秋ニナリヌレバ
コノミトルコソウレシケレ

国道 123 号線を水戸から御前山方面に市街地を抜け、田園風景の広がる飯富にそこはある。常磐自動車道をくぐり、500 メートルほど進むと右側に消防署、その向かいの細い畦道を 200 メートルほど下って行くと田畑の中に石碑と何本かの木が植えてある。

ここは親鸞聖人が飯富の真佛寺へ来られた時、農民が田植えをされていた。聖人も田に入り苗を植え、田植え歌を教えられた。

「五功思惟ノ苗代ニ、チャウサイ永劫ノシロヲシテ、一念歸命ノタネヲオロシ、自力推行ノ草ヲトリ、念々相続ノ水ヲ流シ、往生ノ秋ニナリヌレハ、コノミトルコソウレシケレ」

この歌を聞いた農民たちははじめて聞く阿弥陀如来の尊さに歓喜したと伝えられている。

聖人が当時の常陸の国の人びとにこれほどまで受け入れられたのは、流罪で越後にいらっしやった時に学んだであろう稲作技術を、この土地の人びとに伝えられた事もきっかけになっているのではないかと、この歌からも推測することが出来る。

何れにせよ、当時とあまり変わらないであろう田園風景の中に身を置くと、聖人が着物の裾をまくり上げ、ひざまで泥につかりながら土地の人びとと親しげに田植えをされている姿が目に見えてくる様であった。